

100周年通信 第20号

R5 2.10

明日の本番に向けて、さらに本気の練習が始まりました。



ここで、訂正があります。

前号で代表生徒30人の斉唱とお伝えしましたが、

代表生徒30人の斉唱ではなく、

20名での斉唱でした。

失礼しました。

たった**20名**で歌っていたのです。

下の写真を見てください。歌唱指導赤星先生の背中の中に男子生徒の背中が映っています。3年の生徒会です。



「大津高校生としての意地を見せてほしい」 と思う
いで午後からの練習を見守っていました。

実は、この日の早朝に代表20名は自主練習を行い、
その場にも3年生がいたのです。

歌う20人だけではなく、
いろいろな人たちが真剣そのものでした。

このように真剣に考え、真剣に行動する姿が、
ありがたくてありがたくて・・・。

ステージ上に目を移してみますと、

赤星先生、城戸先生のアドバイスに耳を傾け、一生懸命練習に励む20人の姿があります。

中には、涙を流しながら歌っている生徒もいました。

先輩の叱咤激励に感極まったのでしょうか？

もしかして、

自分たちを不甲斐なく思ったのでしょうか？

もしそうだったとしたならば、この場をお借りしてはっきり言わせてもらいます。

君たちの取り組みは立派だった。

赤星先生のご指導で、午前中の**倍**
は声が出るようになっていきました。

また、城戸先生のアイディアで、歌う20人が
自分たちの席からステージに向かう動きもドラマチックなものになりました。

本番が楽しみになってきました。

この調子だと、全校生徒が起立した形で、校歌・生徒歌を披露できると確信しました。

これが、100周年記念式典本番の様子です！



全校生徒が起立している前で代表生徒20名は校歌を堂々と声高らかに歌ってくれました！



クライマックスの生徒歌斉唱です！声がしっかり出ていました。



その時、体育館の後方では・・・

赤星先生が20人の斉唱をリードしてくださっていました。



この通信を編集している中で知った事実です。本当にありがとうございました。

20人の一生懸命な姿に、不覚にも涙が溢れてきました。